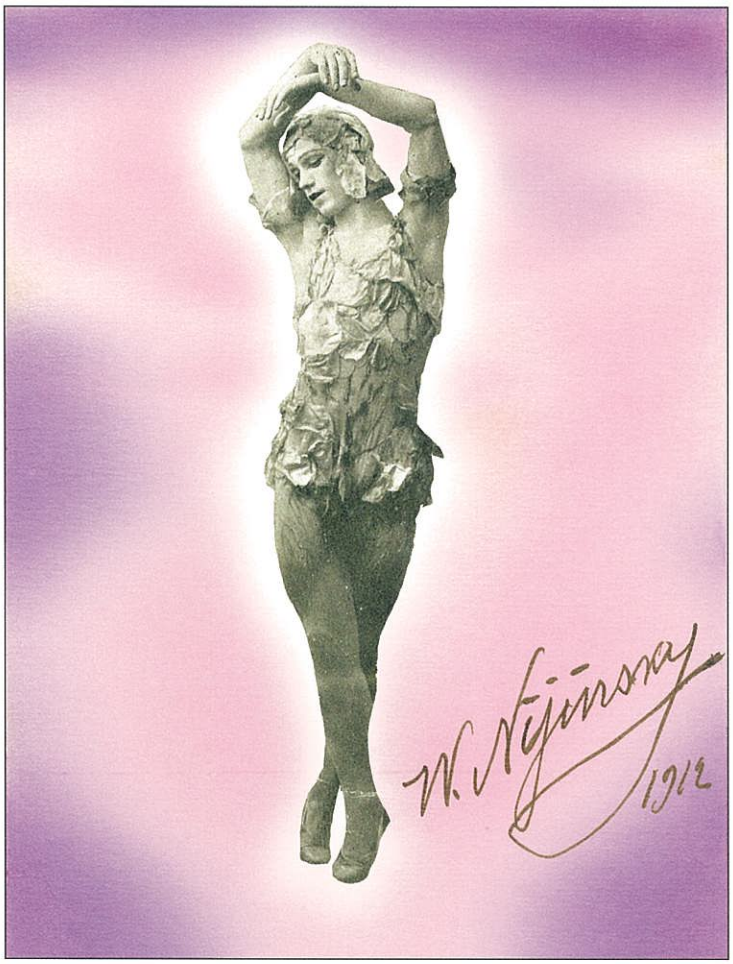

Kenji Usui Ballet Collection

薄井憲二バレエ・コレクション 踊るアイドル～ワツラフ・ニジンスキー vol.2

2006/12/19（Tue.）～2007/1/21（Sun.）

ワツラフ・ニジンスキー／Nijinsky Fomich Vaslav　（ダンサー／振付家）

《プロフィール》

1889年生まれ、1950年ロンドンにて死去、墓地はモンマルトルにある。
20 世紀最高の天才ダンサー。マリインスキー劇場付属帝室バレエ学校に学び、1907 年卒業と同時に同劇場付属バレエ団に参加し、活躍。1909年セルジュ・ディアギレフ主宰のバレエ・リュスに参加し、1911年以来ロシアに戻ることはなかった。
バレエ・リュスが 1909 年にパリに華々しいデビューを飾った日、文字通り一夜にしてスターとなり、多くのファンを獲得した。はじけるパワーと両性具有的な独特の魅力を放ち、高く美しいジャンプでも知られた。1912 年からは振付も手がけ、『牧神の午後』『春の祭典』など革新的な刺激作を4作発表した。1913 年巡業の途中で突然結婚したことでバレエ団を解雇され、1918年に精神の安定を欠き始め、生きながら伝説となった。

《振付作品（音楽／美術）》

1912年『牧神の午後』（クロード・ドヴュッシー／レオン・バクスト）
跳躍が大きな魅力であったニジンスキーが川を飛び越える小さな跳躍のみという振付、ギリシアの浅浮き彫りから思いついたという顔は横顔、身体は正面というバレエらしくない動きそして好色な野獣のような牧神の表現でスキャンダルともなった作品。現在もパリ・オペラ座などで上演され続けている。
1913年『遊戯』（クロード・ドビュッシー／レオン・バクスト）
男性一人、女性二人によるテニスの試合になぞらえた軽い恋の駆け引きを描いた作品。スポーツを主題としたほとんど初めてのバレエ作品であり、またスポーツウェアがバレエ作品に登場したのも新鮮味のあるシャレた作品である。
1913年『春の祭典』（イーゴリ・ストラヴィンスキー／ニコライ・レーリヒ）
架空の古代ロシアの民族が春を迎えるために乙女を生贄にささげるという筋をもち、“兵庫県立芸術文化センター”のオープニングでも再現上演された。バレエの基本である＜パ＞（脚の動き）を根本から否定しかねない内股で肩をすぼめ、大きな足音で跳ね回る作品は驚きをもって迎えられ、作品の内容だけではなく初演会場の混乱ぶりでも知られる。ニジンスキーが唯一振付に徹し出演しなかった作品。
1915年『ティル・オイレンシュピーゲル』（リヒャルト・シュトラウス／ロバート・エドモンド・ジョーンズ）
戦争捕虜となっていたニジンスキーの解放のためにディアギレフは 1916 年の北米ツアーへ参加させ、振付を任せた。ディアギレフが見ていない唯一の作品でもある。ドイツの民話から着想を得、中世を舞台にしたいたずらなティル役はニジンスキーが踊り、評判となった。

Hyogo Performing Arts Center

薄井憲二バレエ・コレクション 踊るアイドル～ワツラフ・ニジンスキー vol.2

2006/12/19（Tue.）～2007/1/21（Sun.）

出展リスト（作品・資料名／分類／年代／ほか）

◆バレエ・リュス公式プログラムより
（プログラム [BRPROF-03]／1912年）
“Programme Officiel des Ballets Russes Theatre du Chatlet”（PRBROF-03）

◆『薔薇の精』を踊るニジンスキーのサイン入り切抜き
（切り抜き・サイン [PH-0664ws]／1912年）
Nijinsky in “Le Spectre de la Rose” with Signature”（PH-0664ws）

◆《ダンス（La Danse）》誌 バレエ・リュス特集号
（雑誌 [MG1024]／1921年／フランス）
“La Danse”（MG1024）

◆「ニジンスキー」
（書籍 [BK-4-bio]／1971年／リチャード・バックル著／英国／
カバー：ディヴェルティスマン作品『レ・オリエンタル』の衣装デザイン）
“Nijinsky”, Richard Buckle, Medenfeld & Nicolson(BK-4-bio)

次回予告

薄井憲二バレエ・コレクション Vol.3 バレエを“舞台芸術”に高めたバレエ団 ～ディアギレフのバレエ・リュス

今回ご紹介したニジンスキーが西欧に紹介されたのは、セルジュ・ディアギレフが率いたバレエ・リュス（＝ロシア・バレエ団のフランス語表記）のパリ・デビューの時でした。バレエ・リュスの登場によってバレエは再び見逃せないアート、社交界の大切なイヴェントとしてパリに再発見されたといえます。1909年から20年間だけ存在し、バレエ団を飾ったのはピカソ、コクトー、ストラヴィンスキーら綺羅星のようなメンバーに彩られ、劇場に所属しないバレエ団という誰も考えなかった形で最先端のアートとして活動し続けました。その魅力の一端をご紹介します。

（期間：2007/1/23～2007/2/14　於：2階共通ロビー・ピアッツア）

◎ 企画・監修　芳賀直子（はが・なおこ／薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター）

兵庫県立芸術文化センター　薄井憲二 バレエ・コレクション 担当
〒663-8204 兵庫県西宮市高松町 2-22 tel：0798-68-0223（代表）fax：0798-68-0212